

【授業科目】地域看護学実習Ⅰ（産業看護）Community Health Nursing PracticumⅠ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
後藤 由紀、大谷 喜美江、佐藤 優子	4年次 通年	選択	1	45	実習	あり	巻末掲載	否
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>授業概要／企業および健診機関の活動、保健師活動の実際を学ぶ。具体的には、企業実習では、企業の労働安全衛生に関する情報を職場巡視および説明などから収集し、産業看護の対象となる個人、集団、組織の理解および健康課題を把握する。対象のニーズに対応した産業看護活動を通して、これまでに学習した産業看護学の知識・技術を活用して、対象の健康の回復・保持・増進のセルフマネジメントへの支援のあり方を考え、保健師の果たすべき役割を理解できるよう実習を進める。健診機関の実習では、健診事業を通して保健師が行っている保健指導（集団や個人）対象となる個人、集団、組織のアセスメントから保健指導の実際までのPDCAを実践するとともに、健診機関の事業との連続性を考察し、保健師の果たすべき役割を理解できるよう実習を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された記録物にコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを公開する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー④「国際的視野で看護を考え、ヘルスケアシステムにおける看護の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 事業場の顕在化・潜在化している健康課題を明らかにすることができる。 ② 対象の成長発達・健康課題に応じた看護活動を説明することができる。 ③ 活動に必要な働く人々・関係者・組織・機関との連携について説明することができる。 ④ 看護展開のための必要な管理的な活動を説明することができる。 ⑤ これまでの看護の学びおよび産業保健に関する知識・技術を用いて、健康課題の解決に向けた支援ができる。 							
時間外学習 に必要な 内容・時間	<p>※詳細については、実習要項を参照してください。</p>							
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間は、令和6年6月24日～令和6年10月11日のうち5日間 ・実習時間は、原則として、8:30～16:30 <p>※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時配布資料を参照してください。</p>							後藤 大谷 佐藤
評価方法 評価基準	<p>※詳細については、実習要項を参照してください。</p>							
学生への 助言等	<p>本実習は、活動の場である事業場の体制、安全衛生管理体制、具体的な活動である健康診断・保健指導・健康教育など、また関連法規等の理解をはじめとした十分な事前学習を前提としています。 産業看護に関連する講義で学習したことを統合・応用して、実習施設の産業看護職、産業保健スタッフ、働く人々と積極的にかかわり、学びを深めてください。 働く人々を理解することは、地域で生活する人々や患者として入院する人々を全人的に理解して看護するうえでも大切なことです。自己の経験を増やすことが、看護者としての自らの成長につながるように積極的に取り組んでください。</p>							